

「地方創生カレッジ 大学生×ローカルキャリア」 ワークショップ等の成果のポイント

1. 講座テーマ

ローカルキャリアという生き方の魅力を知る。

本講座は学生の皆さんを対象に、「地域で働く・暮らす・生きていく」という選択肢の魅力を、様々な立場で地域に関わっているゲストとの対話を通じて考えていく講座です。とかく「就職＝都市圏」となりがちな固定観念を一度横に置いて、「ローカル＝挑戦の場」という選択肢を知り、新たな地域づくりの担い手が増えていくことを目的としています。

2. 事務局としての講座の重点項目

「ロールモデルと出会う機会の少なさ」を解消し、多様な地域との関わり方・生き方を提示していく。

基調講演を含む全4回の講座を通じて、9人のゲストから全国各地の地域での挑戦事例、人生の主人公として主体的に生きている人のキャリア観などを対話形式で学生に伝えていきます。地域おこし協力隊・行政職員・地銀・起業家など様々な立場で挑戦するゲストが、なぜローカルキャリアを選択したのかを理解し、自分ならどうするかを考えるきっかけづくりを行います。

3. 受講者の共感を得た講座における重要項目

- (1) 自分自身が「やりたい」と思え、まわりが「ごきげん」になる基準で、地域の中で取り組んでみたいことを探究していく。
- (2) 与えられた地域課題ではなく、自分ごと化できるテーマを持ち続け、実践し続けることで自分らしいキャリアが積み重なっていく。
- (3) その地域らしさや、自分が感じる魅力を言語化していくことが最初の1歩。その観点が、事業の種になっていく。

4. 今回のワークショップやディスカッションを通じて得た気づき(官民連携、人材交流の効果等)

〈受講者〉都市or地域という二項対立でなく、自身がオーナーシップを持てるテーマに対して、どこで経験を積むのがいいのかを考えることができた。

〈事務局〉多様なゲストの話聞いて終わりではなく、共通する価値観や考え方を理解し、自分ならどうしていくかを考えることを通じてキャリア観の形成をサポートすることができる。

「地方創生カレッジ 大学生×ローカルキャリア」ワークショップ等の成果のポイント

5. 成果スキーム図

重点項目:ローカルキャリアという生き方を知り、自分はどうしたいかを考えるきっかけに

そもそも地域で働く・生きていくことが挑戦的で、自分らしく生きていけるんだという一面を知る機会がなく、都市部一極集中している現状がある。まずは事例を知り、背景を理解することではじめて、自分のキャリアと紐付けて考えることにつながったと考える。本講座では、共感レベルを経て自分なりの今後のキャリアを考えるアクションを推奨した。

